

『一生懸命』幻の新座市議会報告第142弾!



2016年から2017年へ

2016年は色々あった年でした。イギリスがEUから離脱を決め、アメリカ合州国民は新しい大統領にトランプを選びました。世界で「反グローバル化」の声が強くなってきたのです。

グローバル化とは「金」「物」「人」が自由に行き来することです。TPPがそのいい例です。EUもそうですね。特に「人」が自由に国境を越えて入ってくるとなると、雇用(特に若者たち)が心配になります。

グローバル化は国権が脅かされるので、世界中で「反グローバル化」の流れになっているのです。

日本の「少子高齢化」を危ぶむ声もありますが、戦後の日本と似ていると言えば、似ている環境とも言えます。若者の雇用が不安定な今、労働力不足だからと海外の若者の力に頼ったら、戦後のような高度成長は望めません。日本の若者たちの雇用が安定し、生産性を向上させることに日本の未来はかかっていると思います。

平成29年になりました。昭和29年生まれの僕としては、複雑な気持ちになります。平成29年生まれの子たちから見た僕らは、僕らから見た明治生まれのような存在なんでしょうね。

「まだまだ若い」と思っていたのですが、去年は首や手首を怪我して・・・テニスができなくなる時期もありました。今年は怪我と病気に気をつけて、1年を通して元気に働きたいと思っています。

さて、世界で「反グローバル化」の声が強くなってきたということは、日本でもその流れが強くなるということです。グローバル産業から献金を受け、グローバル産業の為に規制緩和を繰り返してきた安倍政権に対しても、厳しい審判が待っているでしょう。

世界中の政治が、今までは「右だ」「左だ」という基準で選挙が行われてきましたが、これからはグローバルか反グローバルかで判断することになりそうです。デフレ状態なのに、グローバル産業の利益を優先し、庶民から消費税を搾り取ろうとしている政治に未来はありません。右も左もなく、グローバル政治を葬る年にしたいものです。



2017年1月31日発行



50年のテニス人生で初めてバックハンドが両手になりました！それが結構楽しく感じるのだから、面白いですね。人生もテニス人生もあと少し・・・

たかやんのプロフィール



1954年2月、東京青山生まれ。新宿区立西戸山中学校、都立石神井高校卒。北海道大3年の時に、突然教師を目指しはじめ、無理やり教職の単位を取る。小学校時代のあだ名は「たか」超悪ガキで、成績も悪かった。

今のあだ名は「たかやん」(そう呼んでくださいね)

月曜日にひばりヶ丘北口(5時～9時)、火曜日には東久留米東口(5時半～8時半)、水曜日に保谷北口、木曜日に新座南口、金曜日に志木南口、次の週に清瀬駅北口、南口にほぼ毎月立っている。

選挙にはお金をかけない主義で、最初の選挙は9768円で戦い、24票差で落選した。(バカですね)

市議会では木村俊彦と「市民と語る会」を結成。他の会派とはひと味違った角度から市政を見ている。

駅立ちの師匠は「吉田よしのり」。師匠には遠く及ばないが、駅立ちを始めてから12年目に入る。

テニスの師匠は「長久保大樹」。この写真に写っている大きな若い師匠に鍛えられて、全日本で勝つことを夢見ている。中一の時の偏差値は40～42。

たかやんの応援団 で 検索

たかやんの連絡先 自宅 042-456-8869 携帯 090-6497-5737
mail:takayanchan@jcom.home.ne.jp 〒352-0033 新座市石神3-19-32-106

③ 市民ファースト

2016年の議会が全て終わり、感じたこと。どうやら新座市も市議会も「市民ファースト」とは程遠い考え方にあるということです。

市は普段「財政難だ」と言い続けているのに大和田2.3丁目の区画整理を見ると、どうみても「清水建設ファースト」ですし、東一丁目のバスの折り返し場を見れば、「西武バスファースト」です。市民の安全より、市の財政より、清水建設や西武バスの利益が優先するのでは困るのです。

一方で町内会への補助金を見れば、町内会ファーストですし、大型道路や大型の区画整理にも「市民ファースト」の考え方はありません。

③ 水増し

もうすぐ全戸配布される「新座市議会だより」の新年号から、「水増し」という言葉が消えました。町内会への補助金に対して、どうみても「水増し」して市に補助金を請求している町内会があったので、そう書いたのですが・・・議会運営委員会でクレームがつき、無難な表現に変更になりました。そこで、市民のみなさんに資料を公表して、「水増し」という表現が適切かどうか判断してもらうことにしました。これも「市民ファースト」の考え方です。

(資料は全て議会で提出された資料です。)

昨年5月から、市の広報は全戸配布になりました。「町内会に入っていないと、広報を貰えないのはおかしい」「全戸配布にすべきだ」と議場で何度も訴えてきたことが、やっと実ったのです。その時に出された資料と自分が情報公開で請求して手にした資料(平成23年度と26年度の予算書と決算書)とを比較して、驚いたことがありました。それは、61町内会の内、予算、決算書に町内会員数が掲載されていた町内会が27しかなかったことです。34町内会は会員数の記載がなかったのです。しかし、市には世帯数を提出し、1世帯あたり180円という補助金を受け取っていたのです。町内会が配布した広報の数も調べることなく、市は町内会に補助金(1部30円)を出していました。1部30円という補助金自体、どこから出てきた数字が分かりません。

1000世帯で計算すると、1000世帯×30円×12ヶ月=36万円(年間)にもなります。

③ 何かがおかしい・・・

例えば、栗原のある町内会は23年度から27年度まで、加入世帯数は常に700。「5年間もずっと同じ世帯数っていうのはおかしいでしょ！」と議会で発言すると、28年度は457世帯に激減しました。同じ栗原のある町内会は5年間、ずっと1000世帯でした。この町内会も議会で「下3桁の数字が変わらないのはおかしいでしょ！」という質問の後、819世帯に激減したのです。

栄のある町内会は24年度から27年度までの4年間の加入世帯数が900でしたが、質問の後の28年度は750世帯で申告しています。町内会には世帯数に応じて補助金が市から出ています。その額、世帯数×180円でした。過去形なのは、今年度からその額が300円に増額されているのです。

増額の理由は市の広報の配布から町内会が撤退したことにあります。それまでは、町内会が市の広報を1部30円という額で配布していたのですが、昨年5月からはシルバー人材センターが遙かに安い金額でポスティングをしてくれています。その減収分、世帯数の補助金を増額したのです。

一方では「町内会に入会しないと、市の広報は貰えない」と言いながら、一方では会員数よりも遙かに多くの広報を配布したことになっていた。そのことに疑問を感じない訳にはいきませんでした。

栗原の1000世帯の町内会は819世帯になりましたが、広報の配布は1485世帯。実に666世帯も余計に配布したことになっていました。

野火止のある町内会では会員数よりも594世帯多く、栄のある町内会では527世帯・町内会に入っていない世帯の分も配布していたことになっていました。しかも、市はその数を何のチェックもなしに受け取っていたのです。各年度の予算書と決算書を見れば、明らかに「水増し」が分かるのです。

議会に提出された資料は僕のHPに掲載する予定です。みなさんの町内会は「水増し」をしてませんか。広報を配布していた班長さんたちは、余った広報を廃棄していませんか？その情報をください。

既にいくつかの町内会から、廃棄の状況も聞いています。市民の税金を無駄に使うことはあってはいけません。町内会の収支報告書に会員数と領収書が添付されるようになる日が来るといいですね。③